

京都府生協連ニュース

<第65回通常総会特集>

2018年8月8日・No.89(通算155号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸通二条上る蔭絵屋町258番地

コープ御所南ビル4階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

第65回通常総会開催

～全議案を満場一致で可決～

6月13日(水)、京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都で開催



<ご来賓からご祝辞をいただきました>



開会のあいさつをする
上掛 利博会長理事



京都府西脇隆俊知事代理
府民生活部 大谷 学部長



京都労働者福祉協議会
橋元信一会長代理
村岡 和也事務局長

京都府生協連第65回通常総会報告

6月13日(水)午後1時30分から、京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都で、京都府生活協同組合連合会第65回通常総会を開催しました。総会の代議員総数は44人で、本人出席31人、書面出席13人でした。来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、82人が参加しました。畑忠男副会長理事による開会宣言のあと、上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、ご来賓の京都府府民生活部・大谷学部長(京都府西脇隆俊知事代理)、京都労働者福祉協議会・村岡和也事務局長(橋元信一会長代理)から、ご祝辞をいただきました。オブザーバーとして、日本生協連関西地連・事務局 片野 緑氏はじめ、10人が参加しました。地元

選出の国会議員、各関係団体、各生協などから81通の祝電・メッセージがよせられたことを酒向事務局長(当時)が紹介しました。高取淳専務理事が第1号～第6号議案を提案し、長誠一郎特定監事が監査報告をおこないました。代議員から8件の発言があり、高取淳専務理事が討論のまとめをおこないました。提案した議案のすべてが満場一致の賛成で可決されました。

総会後に第1回の理事会、監事会が開催され、会長理事に上掛利博氏、副会長理事に畑忠男氏、同・中島達弥氏、専務理事に高取淳氏、特定監事に長誠一郎氏が就任しました。



開会宣言をする
畑 忠男副会長理事



議案提案をする
高取 淳専務理事



監査報告をする
長誠一郎特定監事

■祝電・メッセージをお寄せいただいた方々<順不同・敬称略6月13日現在>

衆議院議員	泉ケンタ	衆議院議員	井上一徳	衆議院議員	木村やよい
衆議院議員	こくた恵二	衆議院議員	竹内譲	衆議院議員	本田太郎
参議院議員	二之湯智	参議院議員	福山哲郎	参議院議員	井上さとし
参議院議員	倉林明子				
京都市長	門川大作	京都府議会議長	村田正治	京都市社会福祉協議会会長	村井信夫
京都商工会議所会頭	立石義雄	京都府農業協同組合中央会会長	中川泰宏	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔
京都府森林組合連合会代表理事会長		青合幹夫			

■全議案が満場一致で可決されました

議案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2017年度活動報告・決算関係書類等承認の件	43	0	0	43
第2号議案 2018年度活動方針・活動計画および予算決定の件	43	0	0	43
第3号議案 2018年度役員選任の件	43	0	0	43
第4号議案 2018年度役員報酬決定の件	43	0	0	43
第5号議案 定款の一部変更の件	43	0	0	43
第6号議案 会員規約の一部変更の件	43	0	0	43

※出席代議員は合計44人(本人出席31 書面出席13)、うち議長1人は採決に参加せず。

【京都府生協連 2018 年度役員体制】(8月現在) *新任

<p><会長理事> 上掛 利博(員外)</p> <p><副会長理事> 畑 忠男(京都生協理事長) 中島 達弥(京都大学生協専務理事)</p> <p><専務理事> 高取 淳(員外)</p> <p><常任理事> 本多 浩(京都府庁生協専務理事) 中森 一郎(大学生協関西西北陸事業連合専務理事) 田中 とみ子(乙訓医療生協専務理事)*</p> <p><理事> 岡田 照雄(京都市民共済生協専務理事) 上総紫香子(生協生活クラブ京都エル・コープ副理事長)</p>	<p>川村 幸子(京都生協副理事長) 河野 直(京都生協常務理事) 坂本 真有美(生協コープ自然派京都理事長) 清水 泰治(京都医療生協専務理事)* 石澤 春彦(京都高齢者生協くらしコープ専務理事)* 藤井 博史(京都工芸繊維大学生協常務理事)* 堂本 吉次(やましろ健康医療生協専務理事) 山本 克彦(全京都勤労者共済生協専務理事)* 酒井 克彦(立命館大学生協専務理事)*</p> <p><特定監事> 長 誠一郎(乙訓医療生協監事)</p> <p><監事> 石井 聡(京都生協常勤監事) 林 章司(京都府医大府立大生協専務理事)*</p>
--	---

【理事・監事を退任されたみなさん】(順不同)

<理事>大塚 正文さん・大森 俊次さん・杉本 頼正さん・谷口 一宏さん

<監事>鯉迫 裕子さん

【事務局】

事務局長 九鬼 隆一

事務局担当 川端 浩子

事務局担当 岡本 朋子

会 員 生 協

京都生活協同組合

生活協同組合コープ自然派京都

生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ

京都大学生協同組合

同志社生活協同組合

立命館生活協同組合

龍谷大学生協同組合

京都府立医科大学府立大学生協同組合

京都工芸繊維大学生協同組合

京都教育大学生協同組合

京都橘学園生活協同組合

京都経済短期大学生協同組合

京都府庁生活協同組合

京都医療生活協同組合

やましろ健康医療生活協同組合

乙訓医療生活協同組合

全京都勤労者共済生活協同組合

京都市民共済生活協同組合

京都高齢者生活協同組合くらしコープ

大学生協同組合関西西北陸事業連合

■8人の代議員から発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

1. 京都生活協同組合 姜 美名 代議員

「ヒバクシャ国際署名のとりくみ」



「京都生協 平和への願い」の中で、「核兵器の悲惨さを体験した唯一の国にある生協として、核兵器は一刻も早く廃絶するべきであると考え、核兵器の保有、使用、威嚇、開発、実験等は容認できません」としている。ヒバクシャ国際署名の取組みは目標5万筆

2020年までに10万筆として2017年度にスタートした。6月21日午後からのピースパレードにあわせ午前中にキックオフ集会としてヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー林田光弘さんによる「核兵器

禁止条約の実現を！世界に広がる『ヒバクシャ国際署名』の力」と題した学習会を開催、京都在住の被爆者で組合員の花垣ルミさんに被爆証言をお願いし70人が参加した。午後からのピースパレードでは署名用紙に小さな折鶴と英語版の呼びかけ、返信用封筒を添えて沿道の方に配布しながら歩いた。7月から宅配や店舗でいっせいに署名用紙を配付、組合員や地域理事を中心に店舗前での署名活動、学習会などさまざまな場面で呼びかけた。また初めてオンライン署名を取り入れた。2018年3月20日までに47,580筆集まり今後につながる前進ができた。これからも京都府生協連、全国の生協、関係団体と力を寄せ合って「ヒバクシャ国際署名」の取組みを継続していく。

2. 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 木下美紀子 代議員

「ごちそうフェスタについて」



「ごちそうフェスタ」は、生協組合員と生産者のパートナーとしての在り方そして私たちの取り扱い商品である消費財の使用価値を確認すること、共に活動する仲間を増やすこと、共感を内へ外へと伝え広げることが目的に11月26日みやこめっせで開催した。「出会い

+発見=わくわく 地球も私もごきげんに」をテーマに、これまでのつながり、また新しいつながりを大切にしていくことを念頭において準備をすすめた。

商品委員や各支部からつった消費プランナーを中心に、参加する生産者の選定やチラシづくり、ほかさまざまな企画運営に携わった。ネーミング案を公募し「エルルン」というかわいいキャラクターが生まれた。缶バッチやTシャツ等も作り広報した。各支部組合員がそれぞれいくつかの生産者を担当し、事前の学習会や試食会を開催し理解を深めるとともに、組合員にスタッフとしての参加、友人を誘いあわせての参加をよびかけた。組合員の特技を披露するステージや、これまでのつながりからご協力いただいた多くの外部団体の皆様の参加や組合員による手作りマルシェ、子どもの広場など多彩な内容となった。この経験を今後の活動にいかしていきたい。

3. 生活協同組合コープ自然派京都 平出美和子 代議員

「国産オーガニックを上げよう」



昨年度活動のテーマは「国産オーガニックを上げよう。」農薬を使わない栽培方法を学んだ生産者が増え技術も確立、安全でおいしく栄養価の高いお米が多く採れたため安い価格も実現した無農薬米の企画について報告する。土づくりの研究でおいしさと栄養価にす

ぐれた野菜を育て農業者の育成にも力をいれている「コープ有機佐伯」のお話を聞きお米の食べ比べをした。殺菌殺虫除草などの苦勞、大変だけれど無農薬でやっていくことで生態系が復活できるのだという強い思い、雑草がはえない土中プランクトンの活

性化という方法について話があった。また「京山城屋」さんの学習会では乾物のこと、無農薬新米にあって簡単おいしいメニューについて話を聞いた。「いただきます～みそをつくるこどもたち～」の映画は1人でも多くの方にみていただきたいと組合員に公募をかけ実行委員会をつくった。映画の舞台は「たかとり保育園」。食育と園児によるみそづくりについての映画だった。やさか共同農場のみそづくりを京田辺、長岡京、京都市の3か所で実施。やさかの手作りキット真空パックは国産オーガニック。市販の味噌にはグルタミンソーダがふくまれているたり発酵をおさえるため加熱処理されているものもあるが、これらの処理をおこなっていない。国産オーガニックを上げるにはやはり食べ物の背景、物語などを伝えることが大切だ。

4. 京大大学生協同組合 坂本 竜樹 代議員

「生協学生委員会による健康増進企画 萬屋 pallet の取り組み」



京大総長自らが昨年11月に発信した「京大ヘルシーキャンパス宣言」とは「①健康に関する教育をすすめ大学のさまざまな活動に健康というコンセプトをとりいれます。②健康づくりのラボ、知の拠点としての研究を進めるとともに、健康増進の新しい取り組みを実践します。③対話を通じて「健康」を考え、大切にす文化を社会に発信し広げていきます。」これはわたしたち学生を含む大学構成委員が社会に対して健康増進の文化を率先して広げていこうというもの。今後の日本社会においてこのような動きはさらに加速していくとみられており、生協の活動は必ずやその一翼を担うものになっ

ていく。2017年10月～11月の4日間にかけて「萬屋 pallet」という企画を考案実施した。大学の健康管理部門（健康科学センター）にご協力いただき、自転車、パソコン、メガネの点検をした。メガネのコーナーは京都医療生協に甚大なるお力添えをいただいた。4日間でのべ800名を超える参加があったほか、アンケートでも総合満足度が90%をこえた。この活動から組合員の健康を支えていくうえで大学を始めとした地域社会の動きとさまざまな地域生協の連携がいかに重要かということがわかった。ヘルシーキャンパス宣言でうたわれている理念は人々が健康的にくらせる社会の創造という点で私たちが普段取り組んでいる生協の活動理念と一致している。地域に根ざして活動しているものどうし、手を取りあってよりよい地域社会をめざして取り組みをすすめていきたい。

5. 京大大学生協同組合 前田 晴久 代議員

「京大生協での地産地消の取り組み推進 地域との連携強化の実践」



地域産・地元産の生産物を店舗で提供する取り組みを継続的に実践している。大学では一般企業の進出が増え、大学生協は競争にさらされている実情がある。そのなかで地産地消の取り組みは生協が生協であるために必要な取り組みである。具体的には舞鶴水産と協力して魚をとりよせている。学生と実際に産地訪問し写真を取りポスターを作成し盛り上げている。ほかに大原百井農場で生産された野菜の使用、京丹後上山地区の古代米の提供、障害者就労支援施設京都市だいが学園との協力連携の取り組みがある。古代米につい

ては京都大学農学部の秋津ゼミの活動がもとではじまり、竹林を開発し農地にする取り組みからはじまり、去年は台風の影響ですべて手刈りをするなど生産者ががんばってくれている。2009年から8年つづいている。食堂でのごはん消費のうち、白米2に対して古代米1、3人に1人が選択しているという人気のメニューとなり、年収穫量は増加、食堂全店で提供している。1食あたり3円を上山地区の地域活動に貢献している。大原百井夢農場からの野菜は、放棄地を利用しボランティアの方が栽培。おもにカンフォーラという店舗で使用し広がっている。地域との連携取り組みとして京都市だいが学園の手作りドーナツも好評。出張販売もしている。今後の展望は産地を知り生産者を知ることによってその作物や地域を賞讃する、「知産知賞」をやっていきたい。

6. 京都府庁生活協同組合 中村 知彦 代議員

「府庁生協の事業活動と課題」



京都府庁職員福利厚生会館の地下と一階に食堂と購買店舗が、宇治市の洛南病院に購買店舗がある。オンラインショッピング、共同購入のほか、収入印紙などを販売している。食堂はお昼のみの営業で大食堂とテイクアウトがある。大学生協事業連合とメニュー、仕入れ等

を共通でしている。大食堂はカフェテリア方式、混雑をさけるため動線を工夫している。そのほか京都市内2コースでお弁当を配達している。旅行部門はJTB提携店となり、職場親睦旅行などの団体旅行や家族旅行、歓送迎会などの企画提案、販売をしている。生命保険・自動車保険・公務員賠償保険等も扱っている。ここ数年、ほぼすべての事業で利用者減、供給高の減少で赤字決算が続く中、人件費を始めとする経費削減で2015年度よりかろうじて黒字となっているが、プレイガイド事業等の削減など、

縮小再生産傾向が続いてきた。組合員の利用増加が最大の課題だが、今後も設備老朽化への対応も必要となる中、妙案がないのが現状。また店舗のない府内郡部職場の組合員へのサービス提供も課題であり、現状ではオンラインショッピングや保険等限られた

ものとなっている。新規採用職員の加入がここ2、3年順調で、大学生協への加入などで生協への認知が高まっているものと考えられる。課題は山積みだが、職員の福利厚生を担う活動をすすめ、今後も存続・発展していけるよう努力していきたい。

7. 全京都勤労者共済生活協同組合 大久保 寿 代議員

「全京都勤労者共済生活協同組合(全労済京都推進本部)2018年度推進活動計画について」



活動の理念は「全労済の原点である事業と運動を通じて『たすけあいの輪』を広げます」。取組みとして2つ紹介する。ひとつは10月発生した台風21号22号では全国各都道府県に大きな被害があり、京都府でも全域の被害となった。京都府で被害受付1123件、近畿で6424件、全国で合計16703

件あった。商品は火災共済と自然災害共済の組み合わせだが、まだまだ自然災害に対する備えが力不足。

火災共済だけでは保証金額も少ないので、自然災害共済の附帯をすすめている。2つめはこの4月に京都府全域で自転車の自賠責保険が義務化されたので、加害者になった場合に備えて京都府京都市と事業提携をして広告やセミナーを実施し啓発活動をした。リビングの広告やフェスタの開催で出展。ひき続き加入推進に努力していきたい。

スローガンとしては「リスクを周知し、無保障者の撲滅と適正加入を推進しよう」とし、適正な加入、無理無駄のない保障をくんでもらうという視点で火災共済自然災害共済、マイカー自賠責共済等の加入をすすめていき、若い方、定年した方を含め幅広い方に必要な保障をすすめていきたい。

8. やましる健康医療生活協同組合 村松 秀一 代議員

「ちょこっと(福祉)相談」



宇治市大久保に位置し、宇治市、城陽市、久御山町の組合員を対象にしている。医療・診療所、歯科・診療所、介護・診療所がある。大きな病院なら医療相談としてソーシャルワーカーがいて医療介護等の相談に応じる体制が整っているが、小さな診療所でも同じよう

に悩んでいる方の相談に対応ができればということが長年の課題だったが、ようやく昨年9月理事会で決定された。相談スタッフは組合員の元生活保護ケースワーカーや査察指導員の経験のある方・社会福祉士・社会保険労務士・医療生協社保委員などに協力をよびかけた。さらにバックアップ体制を整え

るため、行政の現職の組合員にも生活保護、介護保険、年金、障害者等の相談に対応してもらおうと協力依頼をした。そのほか宇治市城陽市の出前講座を利用して相談を担う組合員の勉強会を実施。相談事業の基本的な考え方としては、まず専門的な相談は最終的には弁護士や行政につなげるよう橋渡しをする。そういう意味で「ちょこっとした相談」とした。あくまで「共同相談」に徹する。「請負」は絶対にしない。複数で対応する。開設日は水曜日の午前。2016年12月7日にスタートし、2018年5月末で76回開設して相談件数20件しかなかった。相談件数を増やすために、開設は月2回とし予約票でもって常に対応できるよう改善した。これからも充実させていきたい。

■高取淳専務理事がまとめをおこないました。

本日は代議員から力強いご発言をいただき、あらためて組合員の願いである「安心してらせる社会の実現」という共通の目的にむかっていけると感じている。京都の生協がそれぞれの分野で組合員の要求にこたえて、旺盛に取り組まれていることが伝

わる内容だった。これからも京都の生協が前進し続けるよう、京都府生協連もしっかり役割を果たしていきたい。